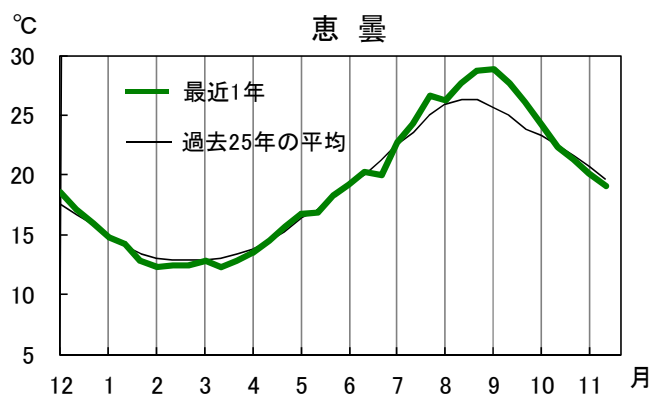
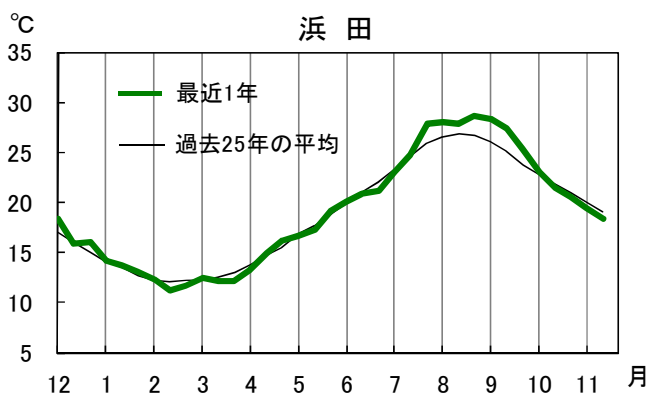




## 《10～11月の海況》

10月	月平均	平年差	評価
浜田	21.6℃	-0.2℃	平年並み
恵曇	22.6℃	+0.2℃	平年並み

沿岸定地水温は、10月上旬は浜田地区では「(高めの)平年並み」、恵曇地区では「やや高め」でした。10月中旬以降は両地区とも低め傾向が継続し、11月中旬まで「(低めの)平年並み～やや低め」で経過しました。



## 《10月の漁況》

## 【中型まき網漁業】

県西部(浜田地区)ではマアジ、サバ類主体の漁況で、1統1航海当りの漁獲量は平年を下回りました。県東部(西郷地区及び浦郷地区)ではブリ、ウルメイワシ、カタクチイワシ主体の漁況で、1統1航海当りの漁獲量は西郷において平年を上回り、浦郷では平年並みとなりました。マアジ、サバ類の漁獲量は、どの地区においても平年を下回りましたが、ブリの漁獲量は各地区において平年を上回りました。また、県東部では、イワシ類の漁獲量が平年を上回りました。

## 【イカ釣漁業】

浜田地区(属地5トン以上)ではケンサキイカ主体(全体の99%)の漁況で、1隻1航海あたりの漁獲量は221kgで平年を下回りました。西郷地区(属人5トン以上)ではケンサキイカを主体(全体の82%)にソデイカが混じる(全体の18%)漁況となり、1隻1航海あたりの漁獲量は186kgで平年並みでした。

## 【沖合底びき網漁業】

浜田港ではケンサキイカ主体の漁況でした。1統1航海当たり漁獲量は13.5トンで、平年並みの水揚げとなりました。ケンサキイカは前月に引き続き好調に推移し、平年の1.5倍の水揚げがありました。一方、ムシガレイは低調で平年の5割の水揚げに留まりましたが、ソウハチは漁獲が増加し、平年の6倍の水揚げとなりました。このほか、キダイ、アナゴ類は平年の1.3～1.7倍の水揚げがありました。アンコウは平年の4割の水揚げに留まりました。

## 【小型底びき網漁業】

和江地区ではケンサキイカ、キダイ、ソウハチ主体、久手地区ではキダイ主体の漁況でした。1隻1航海当たりの漁獲量は、両地区とも前年を下回りましたが、平年並みの水揚げとなりました。両地区とも前月に引き続きケンサキイカが堅調に推移しました。また和江地区ではキダイ、ソウハチが、久手地区ではキダイが好調に推移しました。

## 【定置網漁業】

石見地区ではマアジ、ブリ、サバ類主体の漁況で、1統当りの漁獲量は32.6トンとなり、この時期主体となるサバ類が平年の5割に留まったものの、同じく主体であるマアジが1.4倍、ブリが1.6倍となったため、結果として全統の総漁獲量は平年並みとなりました。出雲地区ではブリ主体の漁況で、1統当りの漁獲量は45.3トンとなり、この時期主体となるブリが平年の2.5倍と好調で、全統の総漁獲量は平年を上回りました。隠岐地区ではブリ、ケンサキイカ主体の漁況で、1統当りの漁獲量は53.3トンとなり、特にケンサキイカが平年の9倍と好調で、全統の総漁獲量は平年を上回りました。

## 【釣・縄】

石見地区ではケンサキイカ、メダイ、ブリが主に漁獲され、1隻1航海あたりの総漁獲量は30kgで平年並みでした。出雲地区ではケンサキイカ、ソデイカ、マダイが主に漁獲され、1隻1航海あたりの総漁獲量は29kgで平年並みでした。隠岐地区ではケンサキイカ、ソデイカが主に漁獲され、1隻1航海あたりの総漁獲量は38kgで平年を上回りました。どの地区でもケンサキイカが漁獲の主体ですが、漁獲量は隠岐地区では平年を上回り(平年比292%)、石見地区では平年並み(同94%)、出雲地区では平年を下回りました(同56%)。

【平成 24 年 10 月の漁獲統計】

漁業種類	水揚港	主要魚種	総漁獲量			CPUE(1 隻(統)1航海あたり漁獲量)			漁模様
			漁獲量	前年比 %	平年比 %	漁獲量	前年比 %	平年比 %	
中型まき網	浜田	マアジ、サバ類	186 トン	26%	29%	8.4 トン	36%	46%	▲
	西郷	ブリ、ウルメイワシ	9,777 トン	88%	120%	84.6 トン	103%	141%	◎
	浦郷	ウルメイワシ、ブリ、カタクチイワシ	4,180 トン	64%	85%	67.4 トン	75%	104%	○
イカ釣り (5トン以上)	浜田	ケンサキイカ	211 トン	51%	81%	221 kg	55%	61%	▲
	西郷	ケンサキイカ、ソデイカ	44 トン	188%	324%	186 kg	59%	126%	○
沖合 底びき網	浜田	ケンサキイカ	378 トン	87%	101%	13.5 トン	81%	101%	○
小型 底びき網	久手	キダイ	220 トン	85%	92%	747kg	77%	97%	○
	和江	ケンサキイカ、キダイ、ソウハチ	341 トン	95%	101%	796kg	86%	103%	○
定置網 (大型)	浜田	ブリ	24 トン	41%	44%	1.2 トン	70%	91%	○
	美保関	ブリ、サワラ類	233 トン	177%	158%	2.3 トン	175%	152%	◎
	浦郷	ブリ	56 トン	142%	261%	1.9 トン	147%	263%	◎
釣り・縄	仁摩	ケンサキイカ、メダイ	23 トン	67%	78%	49 kg	74%	97%	○
	大社	ソデイカ、ケンサキイカ	15 トン	77%	92%	33 kg	86%	117%	◎
	西郷	ソデイカ、ケンサキイカ	30 トン	98%	127%	49 kg	133%	137%	◎

平年比：過去 5 年（沖底のみ 10 年）の平均値との比較 漁模様（CPUE）：◎が平年以上、○が平年並み、▲が平年以下

本年の漁獲量が 0Kg(ほぼ 0Kg)のものは全てを－、前年の漁獲量が 0Kg(ほぼ 0Kg)のものは前年比を－、平年の漁獲量が 0Kg(ほぼ 0Kg)のものは平年比を－とした

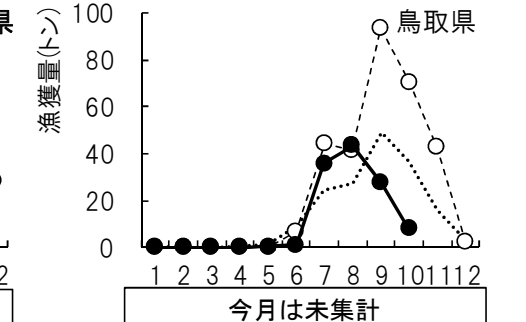
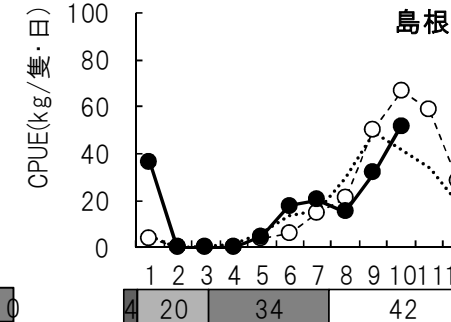
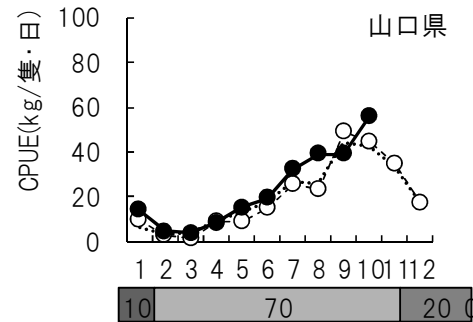
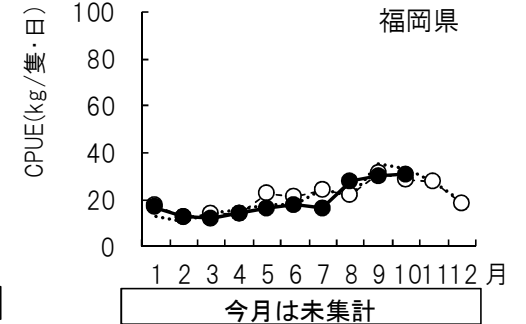
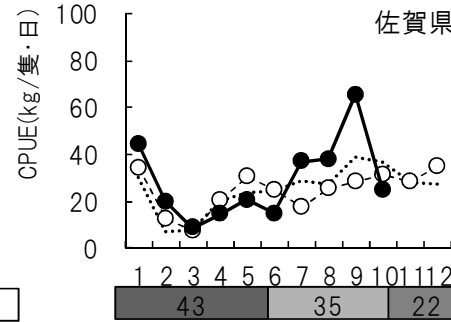
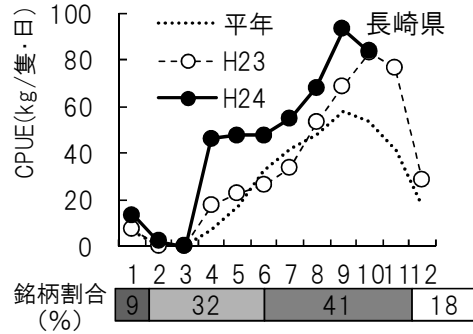
## 【ケンサキイカ情報】

長崎県、佐賀県、福岡県、山口県、島根県、鳥取県の6県で共同発行しているケンサキイカ(地方名:マイカ、シロイカ)の情報(各地の漁況と底層水温)です。

### I : 10月のイカ釣り漁況

これらの情報は各県の主要漁港データを利用しています。折れ線グラフは漁獲量もしくはCPUE、棒グラフは銘柄割合を示しています。

鳥取県	10月は平年および前年を大きく下回る漁獲量となりました(10月の漁獲量は暫定値です)。
島根県	主要7港の水揚量は405トンで、平年並みで、前年を下回りました(前年比58%、平年比105%)。
山口県	漁獲量は前年比125%、平年比112%で、前年をやや上回り平年並みでした。
福岡県	漁獲量は前年比94%、平年比89%と、前年・平年を下回りました。(出漁隻数は平年並)
佐賀県	漁獲量は前年比50%、平年比41%で、前年・平年を下回りました。
長崎県	漁獲量は前年を下回り、平年並みでした(前年比67%、平年比97%)。



※平年は過去5年(H19~H23)の平均値

### II : 11月上旬の底層水温

鳥取県	水深100m以浅の海域の底層水温は15~20℃でした。
島根県	陸棚上の底層水温は、温泉津沖は2~8℃で「かなり低め~平年並み」、高山沖は3~21℃で「かなり低め~平年並み」でした。
山口県	沿岸域では18~21℃を示し、沖合域陸棚上では10℃以下の冷水が出現しました。
福岡県	沿岸域では20~21℃台と平年並み、沖合域では17~21℃台と平年並みでした。
佐賀県	対馬東水道の底層水温は、13.8~20.4℃で、平年並み~やや高めでした。壱岐水道の底層水温は19.4~20.2℃で平年よりかなり低めとなりました。
長崎県	観測データはありません。

